

**降積雪期における労働災害防止対策のとりくみ
について、事業者団体と事業者に対して要請を
行いました**

長岡労働基準監督署

長岡労働基準監督署においては、関係事業者団体と転倒災害の発生が多い業種の事業者(運送業や小売業など流通・サービス業)に対して、冬季特有の労働災害防止、特に転倒防止を徹底するよう要請しました。

要請内容は別添のとおりです。

降積雪期における労働災害防止対策のとりくみについて (要請)

日頃より、自主的な労働災害防止に努めていただき、誠にありがとうございます。

さて、新潟労働局では「降積雪期における労働災害防止対策」を重点施策の一つに位置付け、「冬季無災害運動実施要領」を策定し、冬季における現場の安全衛生管理はもとより、労働者一人ひとりに対する安全意識の啓発や安全衛生教育の実施等を推進しているところです。

例年、当局では、冬季特有の労働災害防止について働きかけを行っておりますが、昨冬の新潟県内の雪による労働災害(休業4日以上)の死傷者数は、240人となり前年度比3人(1.2%)の減少となりました。

特に冬季特有の転倒災害による被災者は189人と、雪による労働災害全体の約8割を占めており、発生場所では「駐車場」が64人(33.9%)と最も多く、通勤時、車の乗り降りの際に車周辺で転倒する災害が多発しています。

また、年齢別では50歳以上で男女とも発生率が高く、特に50歳代・60歳代の発生が顕著に多く、転倒すると重症化して休業日数が長期化している傾向となっていることや、最低気温が氷点下を下回ると一気に転倒災害の発生リスクが高まる傾向が見られます。

つきましては、リーフレットを作成しましたので、職場に掲示いただく等により労働者に対して周知徹底を図り、冬季における労働災害防止対策に万全を期すようお願いします。

令和5年12月1日

長岡労働基準監督署

(添付資料)

- 雪による労働災害に注意！
- リーフレット「冬季無災害運動推進中」(新潟労働局・各労働基準監督署)

降積雪期における労働災害防止対策のとりくみについて (協力依頼)

日頃より、自主的な労働災害防止に努めていただき、誠にありがとうございます。

さて、新潟労働局では「降積雪期における労働災害防止対策」を重点施策の一つに位置付け、「冬季無災害運動実施要領」を策定し、冬季における現場の安全衛生管理はもとより、労働者一人ひとりに対する安全意識の啓発や安全衛生教育の実施等を推進しているところです。

例年、当局では、冬季特有の労働災害防止について働きかけを行っておりますが、昨冬の新潟県内の雪による労働災害(休業4日以上)の死傷者数は、240人となり前年度比3人(1.2%)の減少となりました。

特に冬季特有の転倒災害による被災者は189人と、雪による労働災害全体の約8割を占めており、発生場所では「駐車場」が64人(33.9%)と最も多く、通勤時、車の乗り降りの際に車周辺で転倒する災害が多発しています。

また、年齢別では50歳以上で男女とも発生率が高く、特に50歳代・60歳代の発生が顕著に多く、転倒すると重症化して休業日数が長期化している傾向となっていることや、最低気温が氷点下を下回ると一気に転倒災害の発生リスクが高まる傾向が見られます。

つきましては、冬季無災害運動ポスターを送付しますので掲示等ご活用いただくとともに、冬季無災害運動リーフレットを適宜の方法で会員に配布する等により、冬季における労働災害防止対策に万全を期すよう周知徹底をお願いします。

令和5年12月1日

長岡労働基準監督署

(添付資料)

- リーフレット「冬季無災害運動推進中」(新潟労働局・各労働基準監督署)
- 令和4年度 雪等による労働災害の現状(新潟労働局)
- 冬季特有の転倒災害の概要(新潟労働局)

冬季

無災害運動推進中

運動期間

令和5年12月1日～令和6年2月29日

こんな所が危険です！

屋外通路

出入口
(段差・スロープ等)

駐車場
(車周辺+歩行中)

冬季特有災害の事故の型では転倒災害が大部分を占め、特に事業場玄関、屋外通路、駐車場で多く発生しています。

冬季特有災害の半数は気温の低い深夜から早朝に発生しており、最高気温が氷点下の日には昼間時間帯にも多く発生しています。翌日が氷点下まで冷え込む前日には、注意喚起をしましょう。

冬季無災害運動期間前に、照明設備の確認や凍結防止剤・マット等の準備をしましょう。

凍結も圧雪もシャーベットも 転倒リスクが潜んでいます



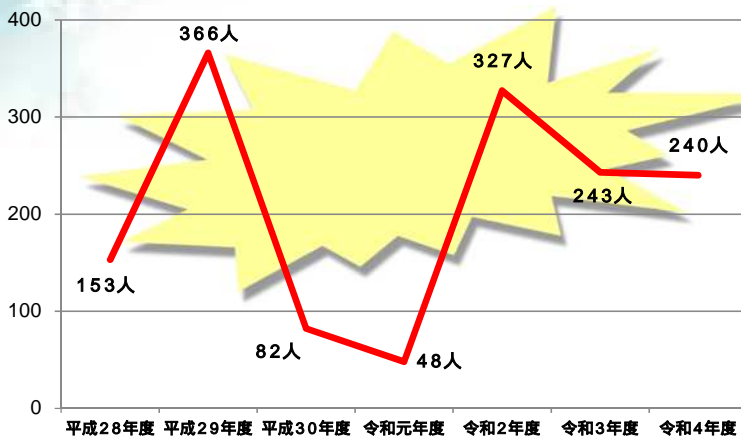
転倒災害防止のポイント

- ① 屋外通路には、凍結防止剤を散布することにより凍結による転倒災害を防止する。
- ② 事業場玄関には、転倒防止用シート・マットを敷くことにより、滑りにくくし転倒災害を防止する。
- ③ 夜間・早朝の駐車場から事業場玄関までを安全に歩行できるように、十分な照明設備を備え、転倒災害を防止する。
- ④ 耐滑性の高い靴を履くことで、滑りにくくし転倒災害を防止する。
- ⑤ 屋外歩行では、両手に荷物を持ったり、ポケットに手を入れるなどせず、万が一転倒しても受け身を取れるようにし、被害を最小限にする。

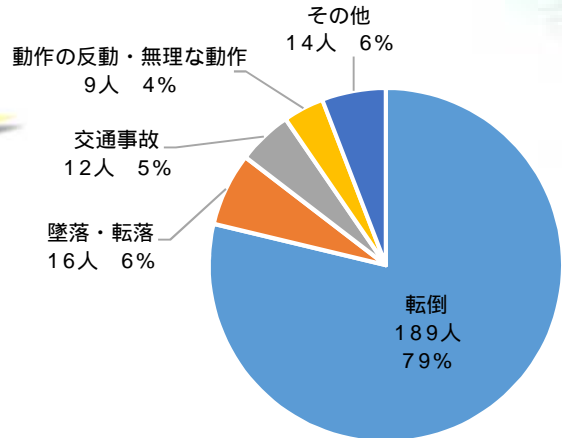


雪による労働災害に注意!!

雪による労働災害発生件数の推移（新潟県_休業4日以上）



事故型別労働災害発生状況（新潟県_休業4日以上）

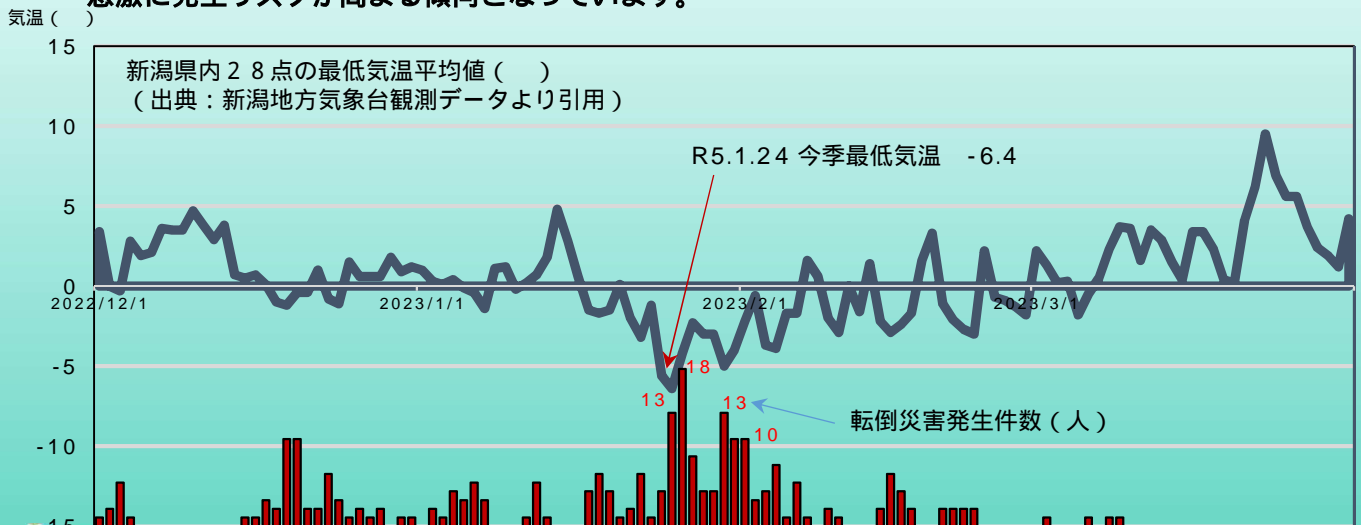


統計期間「令和4.12.1～令和5.3.31」

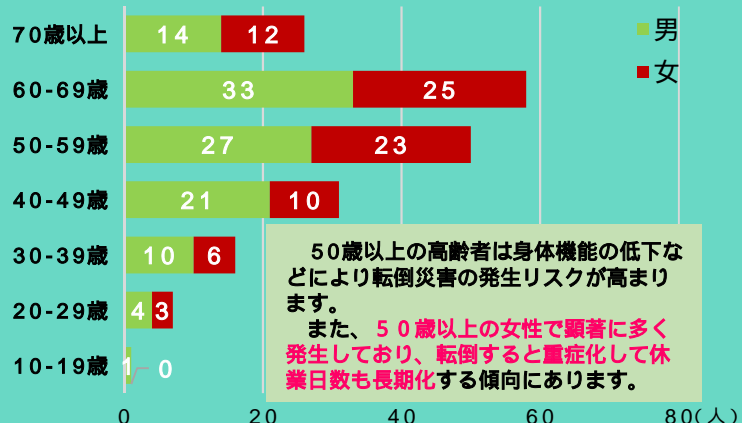
冬季無災害運動期間中（12～3月）の転倒災害発生状況

積雪・凍結等による転倒災害では...

最低気温は、その地域によってバラツキはありますが、相対的に最低気温が氷点下2度以下となると、急激に発生リスクが高まる傾向となっています。



（図9）年齢別・男女別発生状況



50歳以上の高齢者は身体機能の低下などにより転倒災害の発生リスクが高まります。
また、50歳以上の女性で顕著に多く発生しており、転倒すると重症化して休業日数も長期化する傾向にあります。

表の数値は労働者死傷病報告（休業4日以上）の雪による転倒労働災害（189件）を分析したものです。

大雪や低温に関する気象情報を迅速に把握しよう！

（参考）
新潟県ホームページ「新潟県の雪の情報」
<http://www.chiiki.pref.niigata.jp/yuki/>

敷地内の出入口、駐車場、屋外通路の転倒リスクの重点的な点検、注意喚起等、労働者の年齢・性別に応じた対策を取りましょう！

STOP 転倒災害

検索

令和4年度 雪等による労働災害の現状 (令和4年11月～令和5年3月)

新潟労働局

1 年度別の推移

冬の新潟県内の雪による労働災害（休業4日以上）の死傷者数は、240人となり前年度比3人(1.2%)の減少となっている（表1・図1・図2参照）。

2 業種別の内訳

業種別では、「小売業」で51人(21.3%)発生し、うち新聞販売業で18人発生している。次いで、「製造業」で32人(13.3%)、「建設業」で26人(10.8%)となっている（表3参照）。

3 事故の型別の発生状況

事故の型別では、「転倒」が189人(78.8%)と最も多く、全体の約8割を占めている。次いで、「墜落・転落」が16人(6.7%)となっている（表3参照）。

4 作業別の発生状況

作業別では、雪による災害総数240人のうち32人が除雪作業で被災している。また、住宅の屋根除雪作業で8人が被災しており、そのうち屋根からの墜落災害で6人が被災している（表4参照）。

5 月別の発生状況

月別では、「12月」に57人、「1月」に123人、「2月」に56人、「3月」に4人となっている（表4参照）。

(参考) 最近の屋根除雪作業指揮者安全教育の実施状況

場 所 (月日)	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
	魚沼 (11/19)	上越 (11/20)	魚沼 (11/15)	上越 (11/20)	魚沼 (11/13)	上越 (11/20)	魚沼 (11/11)	上越 (11/25)	魚沼 (11/11)	上越 (11/18)
受講者数	60	21	39	22	30	13	49	37	20	43

(表1) 雪による労働災害発生状況の推移

(令和4年11月～令和5年3月)

新潟労働局

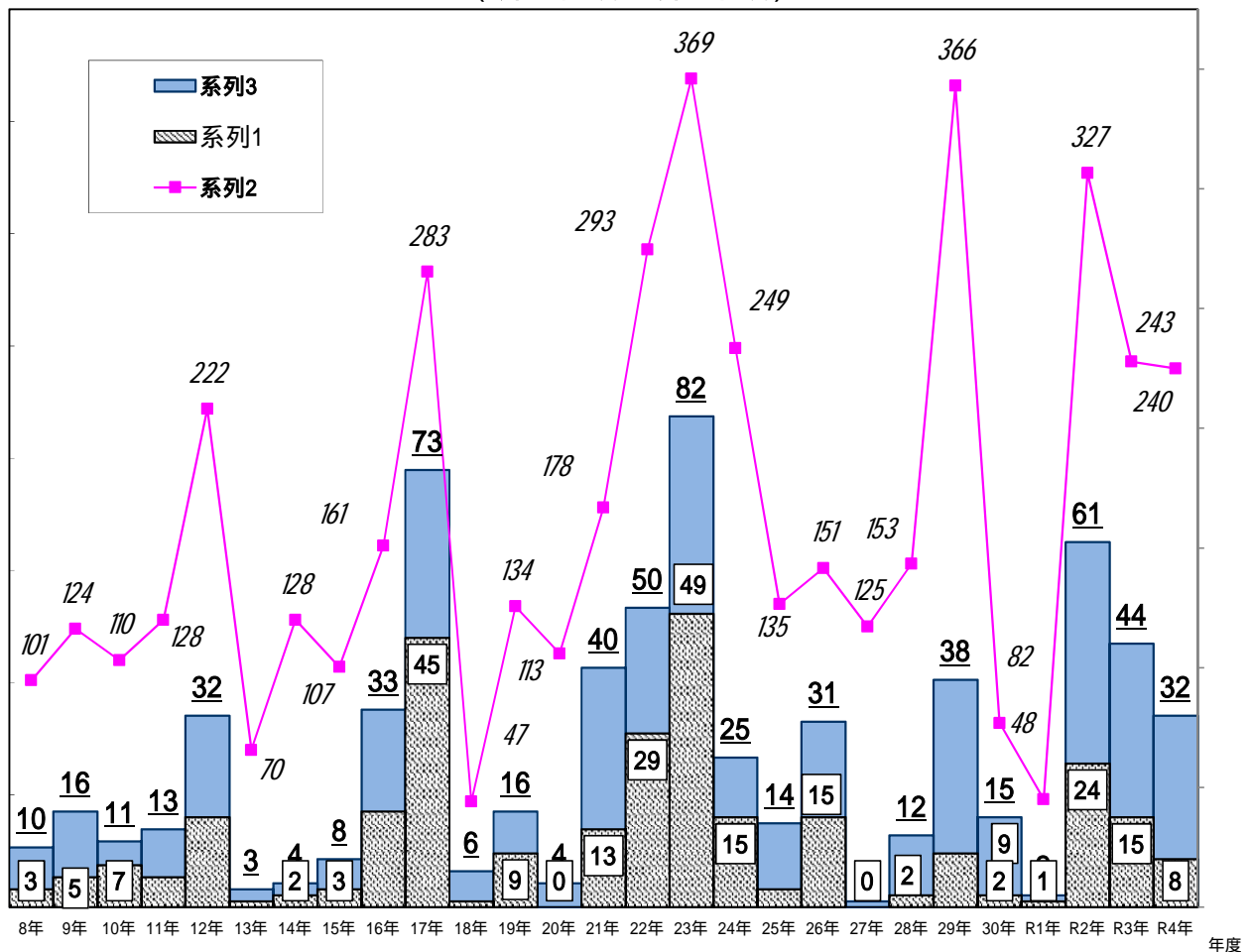
年別	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
全産業	70	128	107	161	283	47	134	113	178	293	369
うち除雪作業	3	4	8	33	73	6	16	4	40	50	82
屋根除雪	1	2	3	16	45	1	9	0	13	29	49

年別	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
全産業	249	135	151	125	153	366	82	48	327	243	240
うち除雪作業	25	14	31	1	12	38	15	2	61	44	32
屋根除雪	15	3	15	0	2	9	2	1	24	15	8

(休業4日以上、内は死亡で内数)

(図1) 雪による労働災害の年度別推移

(令和4年11月～令和5年3月)



(表2) 雪による死亡労働災害の事例

(令和4年11月～令和5年3月)

業種	業種発生月	発生状況
1		<発生なし>

(表3) 雪による業種別・事故の型別労働災害発生状況
(令和4年11月～令和5年3月)

新潟労働局

業種別		署別									合計	割合
		新潟	長岡	上越	三条	新発田	新津	小出	十日町	佐渡		
業種別	製造業	5	3	2	5	7	4	3	3		32	13.3%
	建設業	4	6	2	3	4	2	3	2		26	10.8%
	道路貨物運送業	5	5	1	2	6	2	1			22	9.2%
	新聞販売業	5	2	4	3	1	1	1		1	18	7.5%
	小売業(除新聞)	9	6	2	3	4	6	2	1		33	13.8%
	社会福祉施設	6	1	3		3		5	4		22	9.2%
	スキ－場			1				10	1		12	5.0%
	その他	25	9	9	4	17	3	7	1		75	31.2%
	計	59	32	24	20	42	18	32	12	1	240	100.0%
事故の型別	墜落・転落		2	1	1	2	3	5	2		16	6.7%
	転倒	48	26	20	17	36	15	21	5	1	189	78.8%
	激突	1	2			1					4	1.6%
	激突され	1						3	2		6	2.5%
	巻き込まれ	2	1						1		4	1.6%
	交通事故	3		3	2	3			1		12	5.0%
	その他	4	1					3	1		9	3.8%
	計	59	32	24	20	42	18	32	12	1	240	100.0%

(休業4日以上、()内は死亡で内数)

(表4) 令和4年度 冬期の雪による労働災害発生状況
(令和4年11月～令和5年3月)

新潟労働局

区分 署別	11月				12月				1月				2月				3月				合計			
	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落
新潟					16	3			29				14	2							59	5		
長岡					10	6	1		13	1	1	1	9	1							32	8	2	1
上越					7	1			8				9								24	1		
三条					5				10				5								20			
新発田					7	1			26	4	1	1	7	1			2				42	6	1	1
新津					5	2	1	1	10	1	1	1	3								18	3	2	2
小出					3				19	2			8	2	1	1	2				32	4	1	1
十日町					3	1			8	3	2	1	1	1							12	5	2	1
佐渡					1																1			
合計					57	14	2	1	123	11	5	4	56	7	1	1	4				240	32	8	6
増減(%)	-				26.7%				48.2%				-44.6%				0%				-1.2%			
令和3年度					45	6	2	2	83	15	4	3	101	19	8	8	14	4	1	1	243 (1)	44 (1)	15 (1)	14 (1)

(休業4日以上、()内は死亡で内数)

冬季特有の転倒災害の概要

新潟労働局

雪による災害総数 240 人のうち、189 人が転倒災害で 78.8%を占めており、業種別では、「小売業」で 43 人（22.8%）と最も多い。次いで、「製造業」と「運輸交通業」が共に 27 人（14.3%）、「社会福祉施設」が 17 人（9.0%）などである（図 1 参照）。

発生場所においては、「駐車場」が 64 人（33.9%）と最も多く、次いで「通路」が 57 人（30.2%）となっており、通勤や帰宅の際に車周辺で転倒するなど多発傾向にある（図 2・図 5 参照）。

また、最低気温が氷点下を下回ると一気に転倒災害の発生リスクが高まる傾向があります（図 3・図 4 参照）。

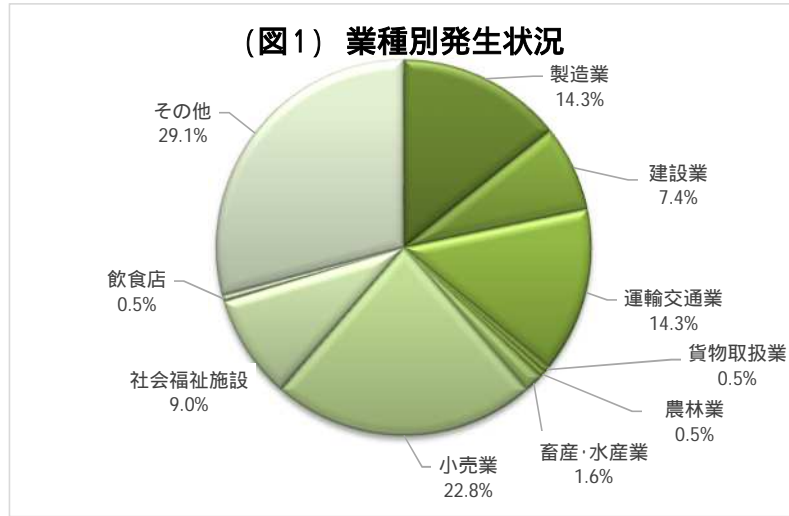
年齢別では、60 歳代以降の転倒災害の発生が約 44.4%を占め、身体機能の低下などにより発生リスクが高まることも一因と考える（図 6・図 7・図 8 参照）。

また、60 歳以上で男女とも発生率は高くなっていることから、転倒すると重症化して休業を余儀なくされるなど療養が長期化するものと考えられる（図 9・図 10 参照）。

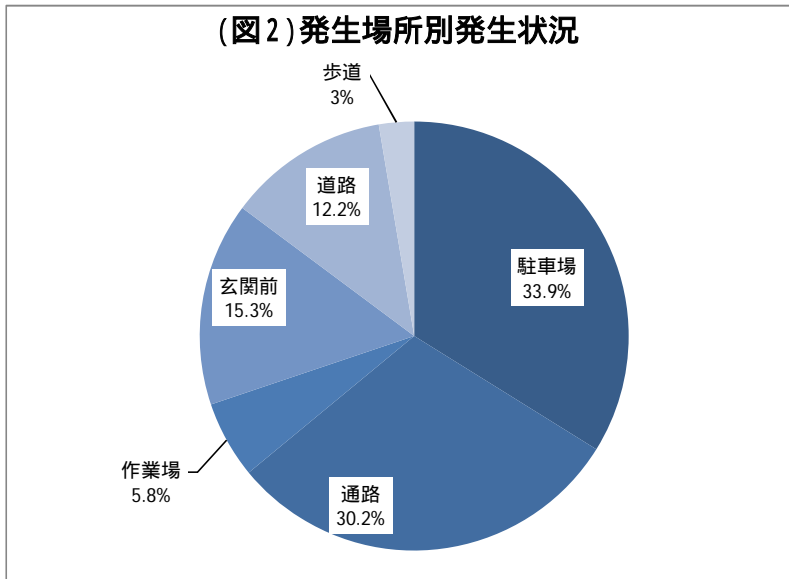
雪等による労働災害には凍結等により転倒等した労働災害も含む

冬季特有労働災害の概要(転倒災害)

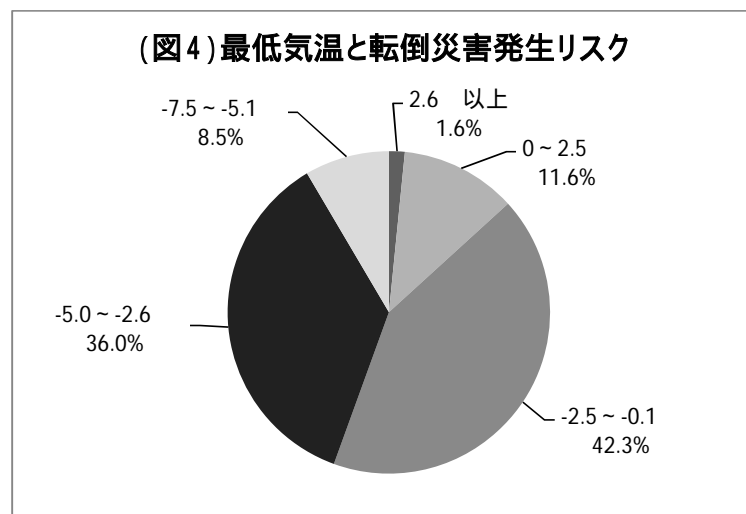
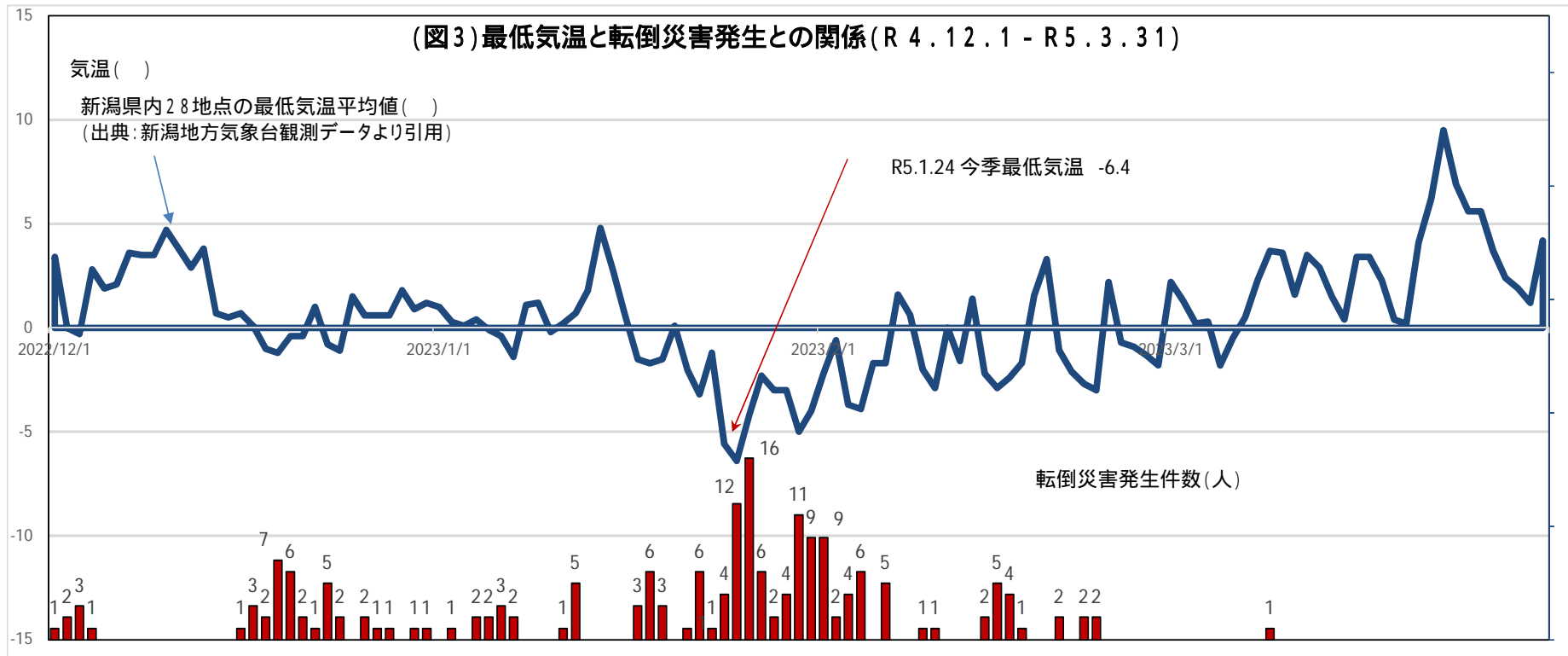
令和5年10月 新潟労働局



業種	令和3年度 (R3.11~R4.3)	割合	令和4年度 (R4.11~R5.3)	割合
製造業	22	12.9%	27	14.3%
鉱業	0	0.0%	0	0.0%
建設業	5	2.9%	14	7.4%
運輸交通業	29	17.1%	27	14.3%
貨物取扱業	0	0.0%	1	0.5%
農林業	1	0.6%	1	0.5%
畜産・水産業	2	1.2%	3	1.6%
小売業	42	24.7%	43	22.8%
社会福祉施設	10	5.9%	17	9.0%
飲食店	4	2.4%	1	0.5%
その他	55	32.4%	55	29.1%
計	170	100.0%	189	100.0%



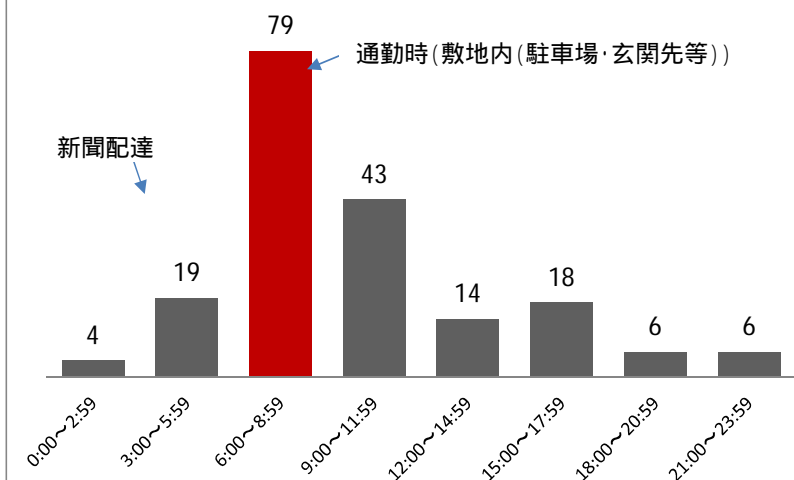
発生場所	令和3年度 (R3.11~R4.3)	割合	令和4年度 (R4.11~R5.3)	割合
駐車場	67	39.4%	64	33.9%
通路	29	17.1%	57	30.2%
作業場	27	15.9%	11	5.8%
玄関前	14	8.2%	29	15.3%
道路	28	16.5%	23	12.2%
歩道	5	2.9%	5	2.6%
計	170	100.0%	189	100.0%



気温	令和3年度 (R3.12 ~ R4.3)	割合	令和4年度 (R4.12 ~ R5.3)	割合
2.6 以上	1	0.6%	3	1.6%
0 ~ 2.5	10	5.9%	22	11.6%
-2.5 ~ -0.1	115	67.6%	80	42.3%
-5.0 ~ -2.6	44	25.9%	68	36.0%
-7.5 ~ -5.1	0	0.0%	16	8.5%
-10 ~ -7.6	0	0.0%	0	0.0%
-10 以下	0	0.0%	0	0.0%
計	170	100.0%	189	100.0%

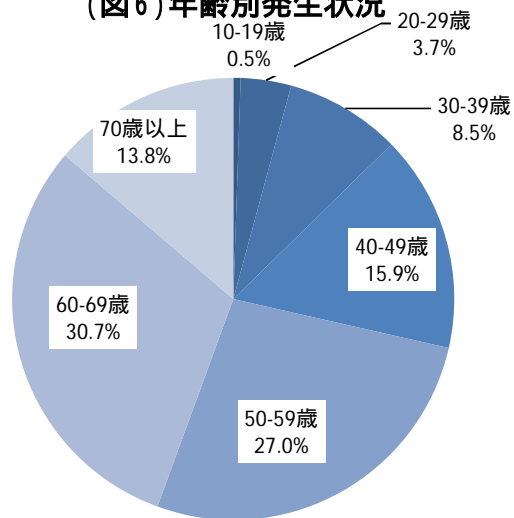
最低気温は新潟県内28地点の最低気温平均値を引用
(出典:新潟地方気象台観測データ)

(図5) 時間帯別発生状況



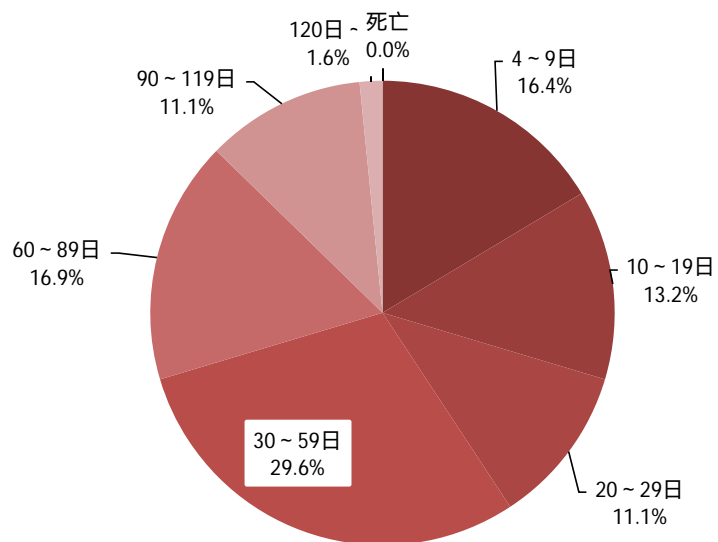
時間帯	令和3年度 (R3.11~R4.3)	割合	令和4年度 (R4.11~R5.3)	割合
0:00~2:59	5	2.9%	4	2.1%
3:00~5:59	30	17.6%	19	10.1%
6:00~8:59	53	31.2%	79	41.8%
9:00~11:59	39	22.9%	43	22.8%
12:00~14:59	12	7.1%	14	7.4%
15:00~17:59	15	8.8%	18	9.5%
18:00~20:59	12	7.1%	6	3.2%
21:00~23:59	4	2.4%	6	3.2%
計	170	100.0%	189	100.0%

(図6) 年齢別発生状況



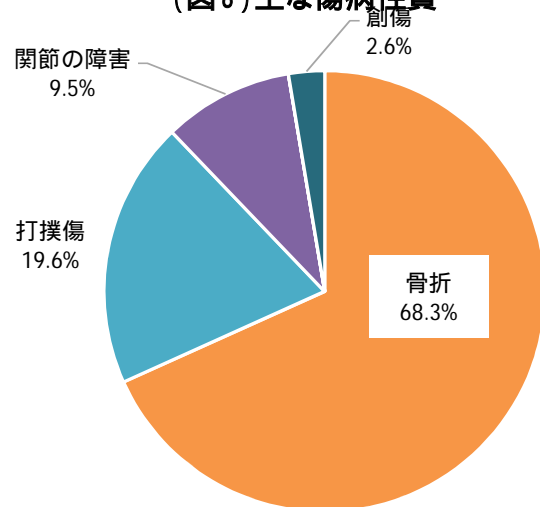
年齢	令和3年度 (R3.11~R4.3)	割合	令和4年度 (R4.11~R5.3)	割合
10-19歳	0	0.0%	1	0.5%
20-29歳	7	4.1%	7	3.7%
30-39歳	19	11.2%	16	8.5%
40-49歳	27	15.9%	30	15.9%
50-59歳	48	28.2%	51	27.0%
60-69歳	52	30.6%	58	30.7%
70歳以上	17	10.0%	26	13.8%
計	170	100.0%	189	100.0%

(図7)休業見込日数



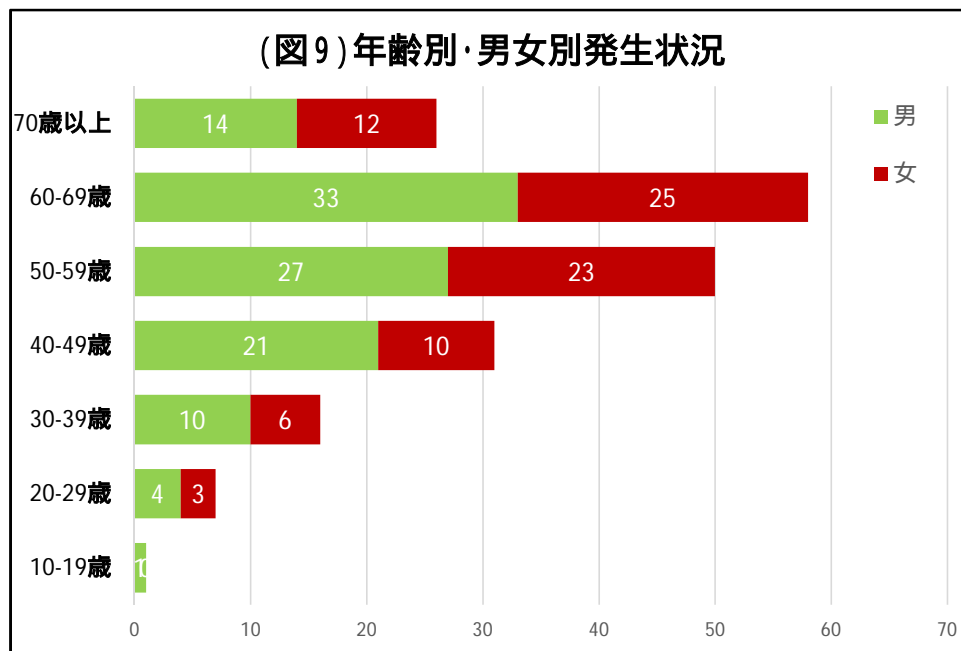
休業日数	令和3年度 (R3.11~R4.3)	割合	令和4年度 (R4.11~R5.3)	割合
4~9日	19	11.2%	31	16.4%
10~19日	19	11.2%	25	13.2%
20~29日	20	11.8%	21	11.1%
30~59日	56	32.9%	56	29.6%
60~89日	34	20.0%	32	16.9%
90~119日	22	12.9%	21	11.1%
120日~	0	0.0%	3	1.6%
死亡	0	0.0%	0	0.0%
計	170	100.0%	189	100.0%

(図8)主な傷病性質



傷病性質	令和3年度 (R3.11~R4.3)	割合	令和4年度 (R4.11~R5.3)	割合
骨折	129	75.9%	129	68.3%
打撲傷	20	11.8%	37	19.6%
関節の障害	17	10.0%	18	9.5%
むち打ち症	0	0.0%	0	0.0%
創傷	4	2.4%	5	2.6%
計	170	100.0%	189	100.0%

(図9) 年齢別・男女別発生状況



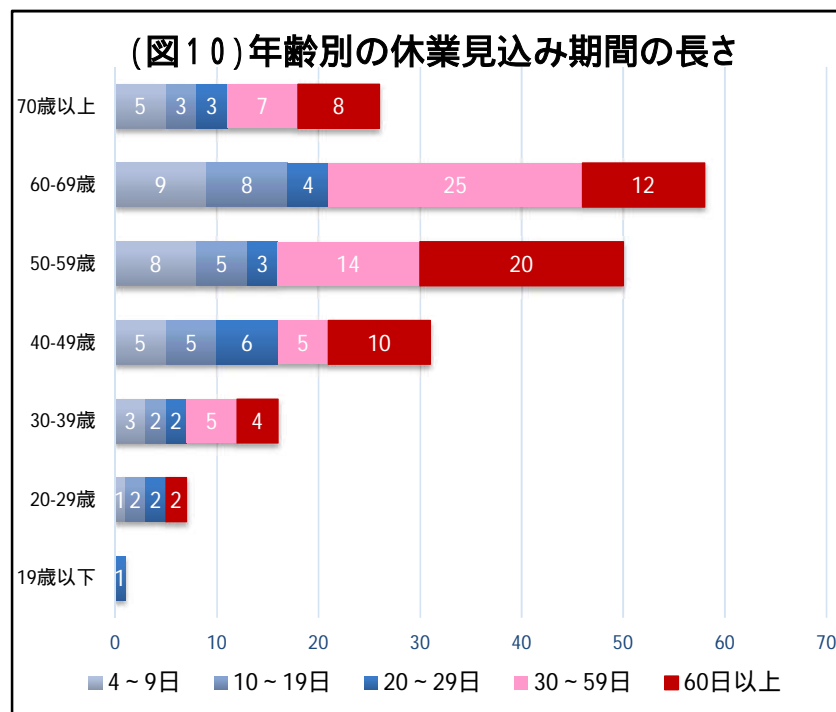
令和4年度(R4.11~R5.3)

年齢	男	割合	女	割合
10-19歳	1	0.9%	0	0.0%
20-29歳	4	3.6%	3	3.8%
30-39歳	10	9.1%	6	7.6%
40-49歳	21	19.1%	10	12.7%
50-59歳	27	24.5%	23	29.1%
60-69歳	33	30.0%	25	31.6%
70歳以上	14	12.7%	12	15.2%
計	110	100.0%	79	100.0%

令和4年度(R4.11~R5.3)

休業見込	19歳以下	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
4~9日		1	3	5	8	9	5
10~19日		2	2	5	5	8	3
20~29日	1	2	2	6	3	4	3
30~59日			5	5	14	25	7
60日以上		2	4	10	20	12	8
計	1	7	16	31	50	58	26

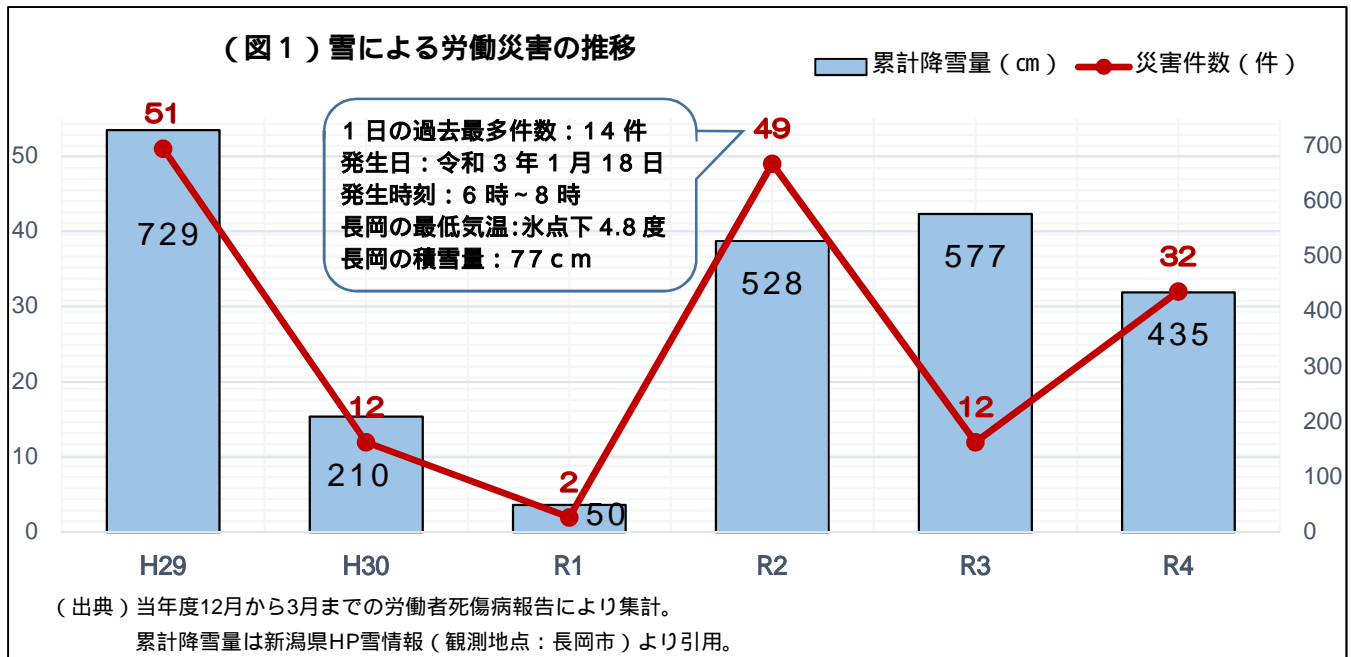
(図10) 年齢別の休業見込み期間の長さ



～ 雪による労働災害に注意！ ～

長岡労働基準監督署

1 雪による労働災害の推移



雪による労働災害はその年の降雪状況により増減がみられますが、長岡監督署管内においては昨冬(令和4年12月から令和5年3月まで)において、32件の雪に関連する労働災害が発生しました(図1)

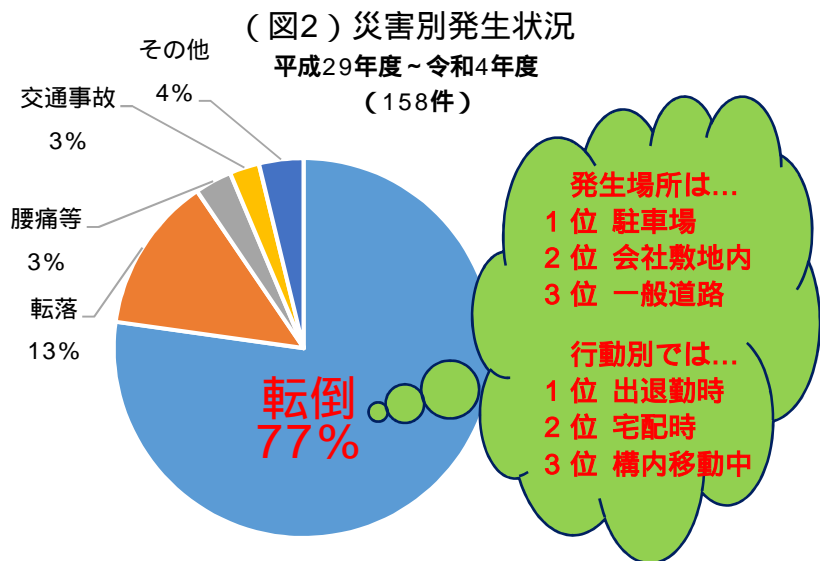
2 災害別発生状況

災害別(事故型)でみると、全体の77%が「**転倒**」による災害が最も多く発生しています。また、**屋根雪下ろし時に屋根・はしご等から転落する、雪かきで腰痛になる**など除雪作業中の事故に加え、**雪路での交通事故**も発生しています。

転倒災害の発生場所をみると、出勤の際に「会社駐車場」で転倒するケースが多く、**車から降りる時、出入口へ歩いて向う時**、特に注意が必要です(図2)

<冬靴の耐滑性にはご注意ください！>

耐滑靴は、「雪・氷」に対応するものを選んでください。



(出典) 当年度12月から3月までの労働者死傷病報告の事故の型により集計。

3 情報サイト

大雪・低温に関する気象情報や積雪・降雪状況の情報は...
 新潟県ホームページ「新潟県の雪の情報」
<http://www.chiiki.pref.niigata.jp/yuki/>

転倒災害防止対策の詳しい情報は...
 厚生労働省 職場のあんぜんサイト「STOP! 転倒災害プロジェクト」
<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html>



(2023.12 長岡)

労働者の転倒災害（業務中の転倒による重傷）を防止しましょう

50歳以上を中心に、転倒による骨折等の労働災害が増加し続けています
事業者は労働者の転倒災害防止のための措置を講じなければなりません

「つまずき」等による転倒災害の原因と対策

- 何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒 (27%)
 > 転倒や怪我をしにくい身体づくりのための運動プログラム等の導入 (★)
- 作業場・通路に放置された物につまずいて転倒 (16%)
 > バックヤード等も含めた整理、整頓（物を置く場所の指定）の徹底
- 通路等の凹凸につまずいて転倒 (10%)
 > 敷地内（特に従業員用通路）の凹凸、陥没穴等（ごくわずかなものでも危険）を確認し、解消
- 作業場や通路以外の障害物（車止め等）につまずいて転倒 (8%)
 > 適切な通路の設定
 > 敷地内駐車場の車止めの「見える化」
- 作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒 (8%)
 > 設備、什器等の角の「見える化」
- 作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒 (7%)
 ※引き回した労働者が自らつまずくケースも多い
 > 転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に遵守を徹底させる

「滑り」による転倒災害の原因と対策

- 凍結した通路等で滑って転倒 (25%)
 > 従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する (★)
 - 作業場や通路にごぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒 (19%)
 > 水、洗剤、油等のごぼれていたことのない状態を維持する。
 （清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してから開放の徹底）
 - 水場（食品加工場等）で滑って転倒 (16%)
 > 滑りにくい履き物の使用（労働安全衛生規則第558条）
 > 防滑床材・防滑グレーティング等の導入、摩耗している場合は再施工 (★)
 > 隣接エリアまで濡れないよう処理
 - 雨で濡れた通路等で滑って転倒 (15%)
 > 雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う
- (★) については、高齢労働者の転倒災害防止のため、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」（補助率1/2、上限100万円）を利用できます
 中小事業者は、無料で安全衛生の専門家のアドバイスが受けられます

転倒災害の発生状況（休業4日以上、令和3年）



転倒による怪我の現状

骨折 (約70%)

- 打撲
- 眼球破裂
- 外傷性気胸 など

転倒災害による平均休業日数 (※労働者死傷病報告による休業見込日数)

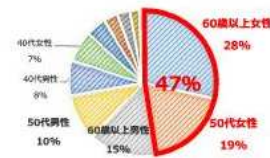
47日

転倒したのは...

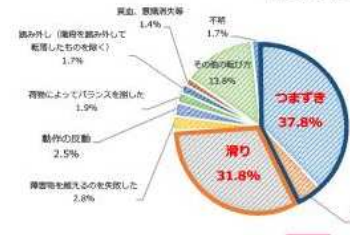


転倒災害が起きているのは移動のときだけではありません

性別・年齢別内訳



転倒時の類型



- <その他の転び方>
- 他人とぶつかった・ぶつかられた
 - 台車の操作を失敗した
 - 他人、動物等を避けようとしてバランスを崩した
 - 足が引っかかった
 - 坂道等でバランスを崩した
 - 立ち上がったときにバランスを崩した
 - 靴紐を踏んだ
 - 風でバランスを崩した

主な原因と対策

転倒リスク・骨折リスク

- 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります
 → 「転びの予防 体力チェック」「ロコチェック」をご覧ください
- 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します
 → 対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう
- 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも
 → 「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（内閣府ウェブサイト）

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

(R5)

職場での転倒にご注意ください！

転倒予防のために適切な「靴」を選びましょう

サイズ

靴と足はフィットしていますか？

足に合った靴は疲労の軽減、事故の防止につながります。

屈曲性

親指から小指の付け根を速に曲げられますか？

靴の屈曲性が悪いと、疲労の蓄積、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。

重量バランス

靴の前後の重さのバランスはとれていますか？

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく、つまずきやすくなります。

つま先部の高さ

つま先から床面まで一定の高さがありますか？

つま先の高さが低くと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。

靴底の減り具合

靴底がすり減っていませんか？

靴底の減りが大きい靴は、滑りやすくなります

耐滑性の有無

靴の滑りにくさを確認していますか？

耐滑性を有する靴は、以下の箇所で確認できます。

- 安全靴の場合
 - 個々のJISマーク表示の近くに「F1」または「F2」の表示があるか確認してください
- ブローナーの場合
 - 靴のべら裏面の表示に、耐滑性のピクト表示があるか確認してください。

その他の性能

- 静電気帯電防止性
- 静電気帯電による放電発火の防止と低電圧での靴底からの感電防止性能
- かかと部の衝撃エネルギー吸収性
- かかと部のクッション性に関係し、かかと部の疲労防止性能
- 耐踏抜き性能
- 釘などの鋭利なものから足裏を防護する性能

労働者の転倒や腰痛など行動災害を防止しよう 個別訪問支援のご案内

利用は **無料**

健康で安心して働ける職場環境づくりに取り組む事業場等に、理学療法士等の専門家を派遣し、働き盛りの中高年労働者の身体機能の維持・改善方法や足腰の筋力、バランス力の低下を防ぐ「転倒」「腰痛」予防等をお手伝いします。

転倒の38%がつまずきによるもの。

50代～60代女性の「転倒災害」は男性の約2倍です。

身体機能の衰え等で、年齢を重ねるごとに「腰痛災害」が増えています。

理学療法士等の専門家が、事業場に訪問し実践・提案します。

- ### 運動機能測定・チェック

 - 体力・バランス・ロコモ度・筋量測定※
 - 職場環境のチェック
 - 作業状況から見た転倒・腰痛対策

※運動機能測定には別途料金が必要となる場合があります。

セミナー、実技指導など

 - 転倒予防・バランス運動
 - 腰痛予防のための運動、姿勢、ストレッチ指導
 - 職場でできるストレッチ体操
 - 作業姿勢の改善や適切な作業管理、作業環境改善

労働安全衛生法第69条により、健康保持増進計画を作成し、労働者に対する健康教育及び健康相談等、労働者の健康の保持増進を図るために必要な措置を講ずることが求められています。

まずはご相談ください！

独立行政法人 労働者健康安全機構
新潟産業保健総合支援センター

〒951-8055 新潟市中央区礎町通2丁目2077番地 朝日生命新潟万代ビル6階
 TEL 025-227-4411 FAX 025-227-4412